

新潟西部地域 「新之助」生育情報 No.7

令和 7年 7月 30日
巻農業普及指導センター

- ◎ 葉色を確認し、必要量の穂肥を施用！
- ◎ 全量基肥栽培でも必ず葉色を確認し、追加穂肥の要否を判断！

【7月30日の生育データ(指標値比較)】

○予想出穂期：8月11日頃

○草丈「やや長い」、茎数「やや少」、葉数「やや遅い」、葉色「やや淡い」

区分	調査地点	移植日	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(L)		葉色(SPAD)	
			本年値	指標比%	本年値	指標比%	本年値	指標差L	本年値	指標差
分施	岩室(普及)	5月16日	84	109	466	104	13.6	0.0	31.3	-2.7
全量基肥	巻	5月16日	81	105	499	111	12.9	-0.7	33.6	-0.4
	岩室	5月8日	81	105	318	71	12.8	-0.8	35.3	1.3
	潟東	5月13日	80	104	452	100	13.5	-0.1	35.1	1.1
	中之口	5月12日	81	105	427	95	13.2	-0.4	28.8	-5.2
	黒埼	5月11日	75	97	339	75	13.4	-0.2	32.9	-1.1
	西川	5月18日	81	105	414	92	12.6	-1.0	32.6	-1.4
	にいがた西	5月11日	88	114	459	102	13.8	0.2	33.9	-0.1
全体平均	5月13日	81	106	422	94	13.2	-0.4	32.9	-1.1	
指標値	5月15日	77		450		13.6		34.0		
近年値	5月13日	80		427		13.2		34.1		

※調査地点:JA新潟かがやき「越後中央」新之助研究会、JA新潟かがやき「みらい」新之助栽培研究会、普及センター
気象感応ほ調査データ

※近年値はH29～R6までの平均値

【今後の栽培管理】

(1)分施栽培の2回目穂肥

○出穂期の12～10日前（8月1日頃まで）に、葉色を必ず確認し、下表をめやすに施量を決定する。

施用時の葉色 (SPAD値)	32.0未満	32.0～34.4	34.5～36.9	37.0以上
施肥窒素量(kg/10a)	1.5	1.0	0.5	施用しない

(2)追加穂肥(分施栽培の3回目、全量基肥栽培の追加穂肥)

○出穂期3日前(かつ、2回目の穂肥から1週間後以降)の止葉の下の葉のSPAD値が34未満で、登熟期間の高温が予想される場合は、窒素成分1kg/10a以内で施用する。

※玄米タンパク質含量率の基準値を超えないよう、遅い時期の追肥や過剰な施肥にならないよう留意する。

(3)水管理

- 稲体が最も水を必要とする幼穂形成期から出穂・開花期に水が不足しないよう、**飽水管理を徹底**する。
- 飽水管理は出穂期25日後まで継続**する。
- 通水期間が出穂期25日後より早く終わるほ場は、最終通水日に深く湛水し、そのまま自然落水して飽水状態とする。**
その際、**暗渠は閉め**、落水が早まらないようにする。
- フェーンの発生が予想される場合は、稲体の急激な蒸散を防止し、出穂前の稲体活力の低下を防ぐため、速やかに湛水する。終息後は、ほ場の水温上昇を抑えるため水の更新を行う。**

～飽水管理のイメージ～

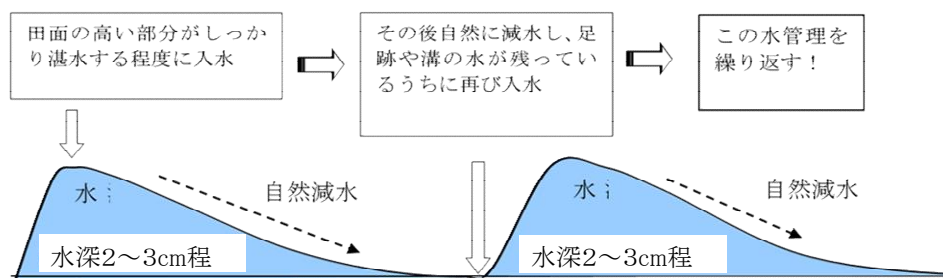


写真 飽水管理で水田の「足跡に水が残っている程度」

(4)病虫害防除

ア. いもち病

- 液剤、粉剤による穂いもち防除を適期に確実に実施する。
1回防除の場合は出穂期、2回防除の場合は出穂期直前と穂揃い期

イ. 斑点米カメムシ類

- ほ場内の薬剤防除を穂揃い期に実施する。7月末～8月第2半旬に共同防除によりカメムシ防除を実施したほ場でも、発生状況によっては追加防除する。

「水稻栽培技術対策資料No.6(8/6発出予定)」、
「新潟市西区・西蒲区版 水稻管理技術情報令和7年夏版(YouTube)」で
参考情報提供中！

農作業時は水分補給や暑い時間帯での作業を回避する等、熱中症対策をしっかりと行いましょう！